



天皇杯第104回全日本スキー選手権大会



2等陸曹

山下陽暉

2等陸曹

田中聖土

3等陸曹

蛭名貴徳

2等陸曹

森口翔太

令和8年3月5日(木)から8日(日)の間、白旗山競技場(北海道札幌市)において「天皇杯第104回全日本スキー選手権大会」が開催され、クロスカンリースキー班から田中聖土(たなかまさと)2等陸曹以下5名が参加し、男子リレー種目(10km×4名)で優勝、男子15kmクラシカル種目で山下陽暉(やましたはるき)2等陸曹が2位、男子50kmマスタート(フリー)種目で田中2曹が3位の成果を収めた。

大会1日目男子リレー種目(10km×4人)は1・2走者(クラシカル走法※1)、3・4走者(フリー走法※2)と区別され、参加の7チームが一斉にスタートし、ゴールした順に順位が決定する。個人種目が多い競技だが、リレー種目ではライバル関係である選手たちが力を合わせる唯一のチーム戦。この日は前夜から降り積もった湿った雪の影響で、滑走性が落ちるコース状況であった。1走の森口翔太(もりぐちしょうた)2等陸曹は、終始先頭集団で他のチームを引っ張る形でレースを進めたが、雪質の影響もあり後続のチームを引き離すことが出来ず、約2秒差の4位で2走の蛭名貴徳(えびなたかのり)3等陸曹へ繋いだ。ここでもレース展開は動かず1つの集団のまま3走の田中2曹へ繋いだ。田中2曹はギアを上げて後続チームを引き離し、残り4チームの争いとなった。4走の山下2曹は、最後のスプリント勝負になる事を予測し、優位なポジションでレースを進めた。残り500mで一気に加速し、2位のJR北海道を引き離してゴールへと飛び込み優勝を勝ち取った。

3年振りの優勝を果たし、天皇杯を奪還した選手たちはレース後、「ここ数年リレーで優勝ができていなかったのが嬉しい。リレーでの優勝は個人種目とは違った嬉しさがあり、勝利に導いてくれた仲間感謝している。この優勝は体育学校が日本で一番のチームだという証明になるので、これからも連覇して日本一のチームを証明し続けたい。」と語った。

最後に、難しい雪質の中で選手達にベストなスキーを仕上げたワックススタッフのチーム力がなければ、優勝へと導けなかった。クロスカンリースキー班は、本大会で今シーズン全てのレースを終了し、次なる目標である2027年ノルディックスキー世界選手権(スウェーデン)へ向けて準備と強化はすでに始まっている。

※1 クラシカル走法：2本の溝(トラック)にスキー板を平行に保ち、交互に蹴り出して進む伝統的な走法

※2 フリー走法：走法に制限はなく、板をハの字に開いて蹴り、スピードが重視されるスケータリング走法



1走 森口2曹



2走 蛭名3曹



3走 田中2曹



4走 山下2曹

総合成績 (メダル獲得選手)

男子15kmクラシカル種目 山下 陽暉 2等陸曹 (富山県出身) 第2位

男子50kmフリー種目 田中 聖土 2等陸曹 (秋田県出身) 第3位

